

「国民の森づくり」事業を昨年に引き続き実施

上益城支部（坂本猛支部長）では、昨年に引き続き「国民の森づくり」として植樹事業を3月23日（金）に実施した。



苗を持ち植樹地に入る参加者



植樹風景



2人で協力しながらの植樹

好天に恵まれた当日、午前9時30分に植樹際の会場となった上益城支部管内の山都町御所大矢の国有林地18,146㎡に会員各社から約160名、このほか、植樹指導も含め上益城地域振興局、森林管理署、緑川森林組合からも参加者が集い、広葉樹の苗6400本を植樹。

作業に先立ち坂本支部長は「建設業は重機や車の使用により大なる排気ガスを排出しており、この排気ガスの吸収源、二酸化炭素の吸収源としての植樹が重要である。少しでも日本国土に還元できるよう協力を求めたところである。本日も賛同いただいた皆さんに感謝申し上げます。」と植樹祭実施の趣旨を含め挨拶。

来賓挨拶として寺岡上益城振興局林務課長より「森林は環境面での重要な役目を果たしている。支部の取り組みが地域に広がることを願う」旨、植樹活動の重要性を含め挨拶。

このあと参加者は植樹にあたっての説明を受けた後、全員植樹地に入りケヤキ・コナラ・山桜・山モミジ・アラカシ

の苗を1本1本手で植え付け散水し、午後3時全作業を終えた。

上益城支部では、平成17年度・18年度の2カ年において総合計で12,800本の苗木を植樹。

今後10年間にわたり植樹地の下草刈りなど実施し「国民の森」を守り育てていくこととしている。